

2015 年度前期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—経済学研究科—

経済学研究科長 浅井良夫

アンケート調査に対する大学院生諸君の協力に感謝いたします。大学院の授業は、昨年度から引き続き、全体として高い評価を得られたことは、喜ばしいことです。これは、大学および教員が授業方法・内容の改善のために、日頃から努力していることが実を結んだ結果だと思われま

す。全体として、大学院では、徹底した少人数教育と、研究指導計画に沿った段階的な指導を実施しており、内実を伴った教育システムが高い評価に現れているものと考えてよいでしょう。

以下、個々の項目についてコメントを述べます。総合的な授業評価は、4.83 であり、きわめて高い数値と言えます。各項目は、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」、「予習または復習をよくした」、「休講または教員の遅刻が多かった」を除き、4.5 を上回っており、この3つの項目以外については、ほぼ問題はないと思われま

す。ただし、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」という設問に対しては、「そう思う」は 58.1%にとどまり、「ややそう思う」が 29.1%、「どちらでもない」が 9.5%を占めている点を見ると、授業のレベルについては、なお改善の余地があると考えられます。「予習または復習をよくした」の設問では、「そう思う」が 52.5%にとどまり、「ややそう思う」が 31.3%、「どちらでもない」が 14.1%を占めていることから、院生が必ずしも十分に予習・復習に取り組んでいない傾向も窺われ、今後、院生諸君のいっそうの奮起を促したいと思いま

す。アンケート調査は前期と後期で対象科目、履修者数の点で大きく異なりますので、2014 年度前期と比較して見たいと思いま

す。総合的な評価は、昨年度前期は 4.86 で今年度前期は 4.83 であり、有意の差はありません。大学院においては、段階的に研究を積み重ねることが重要であり、博士課程前期の場合は原則として 2 年間で論文または課題研究報告を完成するという目標に沿って、計画的に研究を進めることが院生諸君に求められています。教員側も、院生をサポートするために、院生諸君と十分に話し合っ